

株式会社岡田鉄工所

札幌市白石区の株式会社岡田鉄工所は、北海道職業能力開発大学校が実施する能力開発セミナーに社員を派遣している。顧客ニーズの高度化に対応していくためには従業員の技術力向上が不可欠と考え、今後も様々な研修を受講させていく予定である。

技術力向上を目指し 道職業能力開発大学校で 実践型の溶接研修を受講

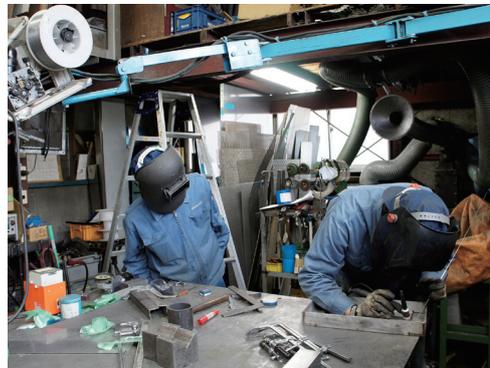
顧客の幅広いニーズに対応するために

同社は「世界にただ1台のオーダーメイドの機械」を設計・製作できる鉄工所として、60年以上の実績を誇る。その強みは顧客のニーズに合わせ、機械制御に必要な電気設計や制御盤の製作、据え付け工事からメンテナンスに至るまで、すべてを1社でやり遂げられることだ。これまで、食品加工ラインで製品を急速冷凍しながら次の工程へと搬送するスパイラルコンベア、食品等のフィルム包装された商品の液漏れ検査装置、紙すきの原理を応用した人工皮膚製造機械など、多岐にわたる分野でオリジナル機器を製造してきた。

近年は、アルミ、ステンレス鋼材等を使用する機器の受注が増えており、また溶接面の見栄えの良さなど高い品質を求められるが、これらの材料は熱による膨張・収縮率が高く、溶接の際に歪みが生じやすいという特徴がある。ガス溶接を得意としてきた同社は、顧客の幅広いニーズに対応していくためにはアーク溶接技術の向上が急務と考え、札幌市ものづくり産業人材育成支援事業の助成を受けて、北海道職業能力開発大学校の講習会へ社員を派遣することとした。

少人数制の座学と実習で技術向上に手ごたえ

北海道職業能力開発大学校の「TIG溶接実践技術(ステンレス鋼板材編)」を、若手社員2名が受講。他社の受講者と併せても計6名という少人数制の講座で、各自が日頃の作業で感じていた疑問点を講師に確認することができ、技術面の癖や慣れを見直す機会を得られた。習得した知識・技術は社内のノウハウとして共有するとともに、安定して実践していけるよう習熟を目指していく。「当社では従来、ガス溶接が中心でしたが、アーク溶接技術を向上させることで受注の幅が広がり、顧客満足度も高められると考えています。社員には受講が良い刺激になったようです。この機会に、検定試験などにも挑戦してほしい」と岡田専務は語った。



少数精鋭の技術者が顧客のニーズに対応

補助金を活用し 次のステップへ

専務取締役 岡田 修一



技術者は製造現場で数をこなすことも大切ですが、理論的な勉強も必要です。いつか機会があったら勉強し直したいと考えていても、仕事が忙しい、費用がかかるなどの理由で踏み切れない人が多いのではないのでしょうか。企業が社員を研修へ送り出しやすくなる本補助制度は広く知られるべきですね。当社では、今後も社員に研修を受講させていく予定です。

日頃の疑問を 解消する機会に

製造部 高橋 優



2日間の講習で、製造現場で我流になりがちだった部分や、普段の仕事の中で気になっていたことも講師の方に確認でき、大変ためになりました。ステンレスの薄板は熱をかけ過ぎると穴が開いてしまいますが、溶接の際にガスの流量を微調整するなどの細かなポイントが分かり、現場でも実践を重ねています。作業がやりやすくなり、受講してよかったと実感しております。

基礎から技術を見直し前進を

製造部 山本 有志



私は入社前にガス溶接とアーク溶接技術者の資格を取得しましたが、実技は工場で先輩に教わりながら、ほぼゼロから学んできました。今回の講習会で基礎的な技術を見直すことができ、これからはより良い製品を仕上げるため、さらに深く学んでいきたいと思います。後輩にも、自分自身が教わったことを生かしたアドバイスを心がけています。